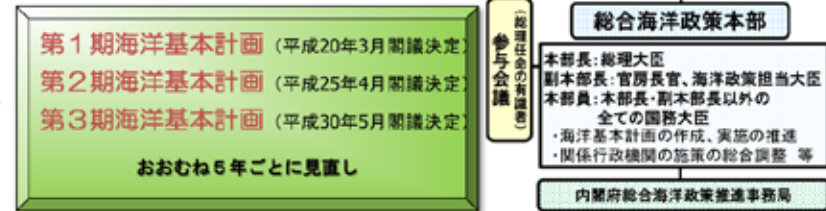


第3期海洋基本計画について

- 我が国の海洋に関する諸施策は、海洋基本法及び海洋基本計画に基づき、総合的かつ計画的に推進。
- 第2期海洋基本計画は、平成25年4月に策定され平成30年4月で5年を経過。
※海洋基本法では、「おおむね5年ごとに、海洋基本計画の見直しを行い、必要な変更を加える」とこととされている。
- **平成30年5月15日に、総合海洋政策本部会合での了承及び閣議決定によって、第3期海洋基本計画を策定。**
- 第3期計画の主なポイントは以下のとおり。

海洋基本法の成立(平成19年4月20日)

<海洋政策の推進体制>



第3期計画のポイント

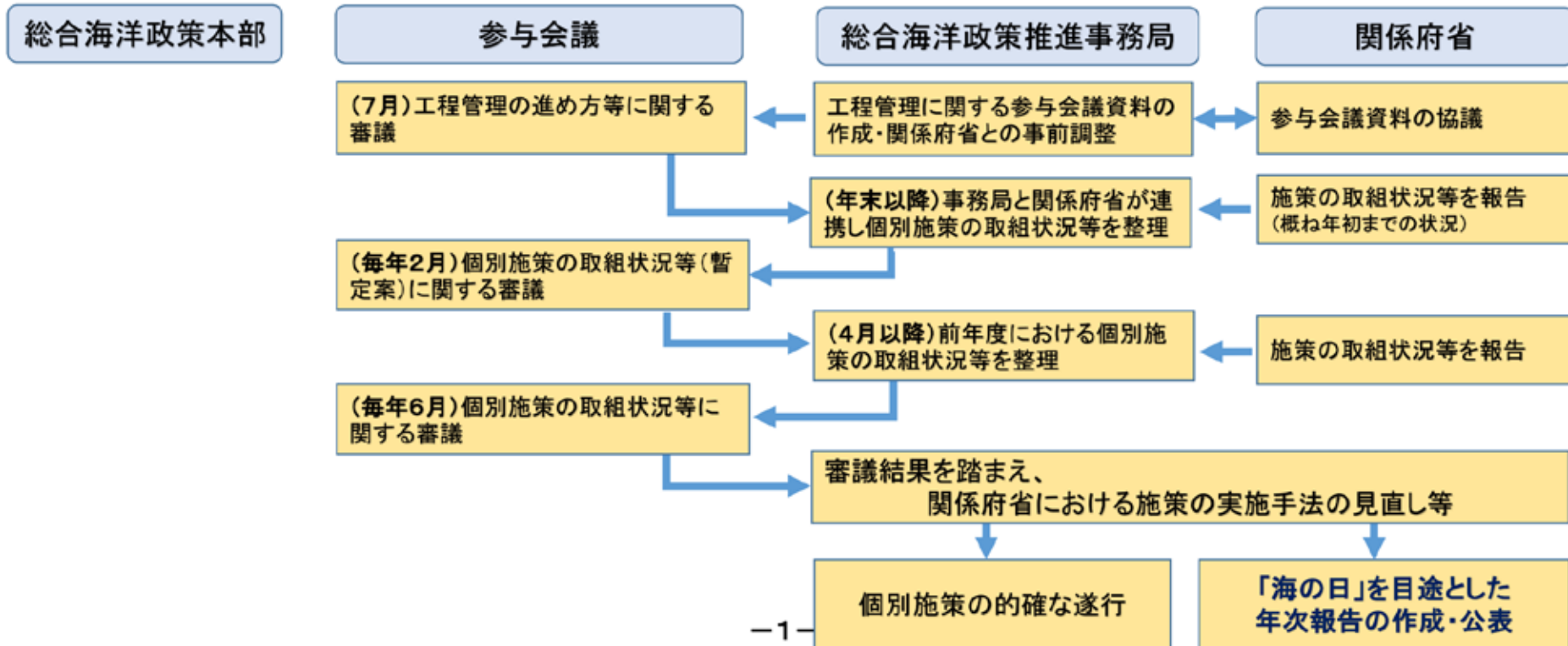
- (1) はじめに ～評価と現状認識～
海洋基本法制定からのこれまでの歩みを総括した上で、現状認識を整理。
 - (2) 第1部
～総論(海洋政策の理念、方向性、施策の基本的な方針)～
 - ① 海洋基本法の目的「新たな海洋立国を実現すること」を目指すため、「**新たな海洋立国への挑戦**」を本計画の政策の方向性として位置付け。
 - ② ①の政策の方向性の内容を、端的なキャッチフレーズを用いて示すと、以下のとおり。
 - (a) 開かれ安定した海洋へ。守り抜く国と国民
 - (b) 海を活かし、国を富ませる。豊かな海を子孫に引き継ぐ
 - (c) 未知なる海に挑む。技術を高め、海を把握する
 - (d) 先んじて、平和につなぐ。海の世界のものさしを作る
 - (e) 海を身近に。海を支える人を育てる
 - ③ 海洋の安全保障の観点から海洋政策を幅広く捉え、中核である海洋の安全保障に関する施策に加え、海洋の安全保障に資する側面を有する施策とを併せ、「**総合的な海洋の安全保障**」として、政府一体となって取組を推進することを明記。
 - ④ 最近の海洋における情勢変化を踏まえ、「総合的な海洋の安全保障」のほか、**海洋の主要施策**として、
 - (1) 海洋の産業利用の促進
 - (2) 海洋環境の維持・保全
 - (3) 科学的知見の充実
 - (4) 北極政策の推進
 - (5) 国際連携・国際協力
 - (6) 海洋人材の育成と国民の理解の増進
 についての基本的な方針を記載。
「北極政策」は、計画では初めて主要施策として位置づけ。
- (3) 第2部 ～各論(具体的施策)～
 - ① 約370項目の施策を列挙。
 - ② 海洋諸施策の実行性を担保するため、各施策の**実施府省名を明記**。
 - ③ 「**海洋状況把握(MDA)の能力強化**」を項目として独立。
- (4) 第3部 ～計画推進に必要な事項～
 - ① 総合海洋政策本部が総合海洋政策推進事務局と一体となって、政府の**司令塔**としての機能を果たし、取組を推進。
 - ② 施策の進捗状況を把握・評価し、計画的かつ総合的な推進に活かすため、PDCAサイクルを活用し、俯瞰的・定量的に把握するための**指標を用いた工程管理**を行うことを記載。

PDCAサイクルを活用した工程管理について

資料2

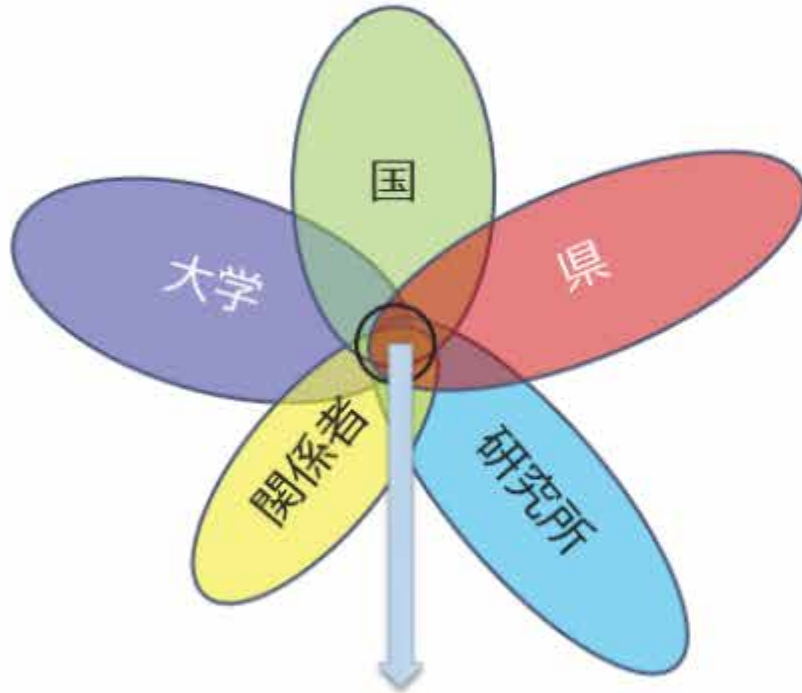
平成30年度における海洋施策(373項目)に係る工程管理

- 政府は、広く国民に海洋政策について理解を頂き、施策の推進に協力を頂くため、毎年度、海洋に関する施策の取組状況や成果等を取りまとめた「海洋の状況及び海洋に関して講じた施策」(以下「年次報告」という。)を作成・公表することとしている。
- また、年次報告の作成を通じて、関係府省は、海洋基本計画第2部に記載された373項目の個別施策(Plan)に基づき、取組状況(Do)や成果や課題(Check)を整理、今後の取組の実施手法の見直し(Action)に活かすこととしている。



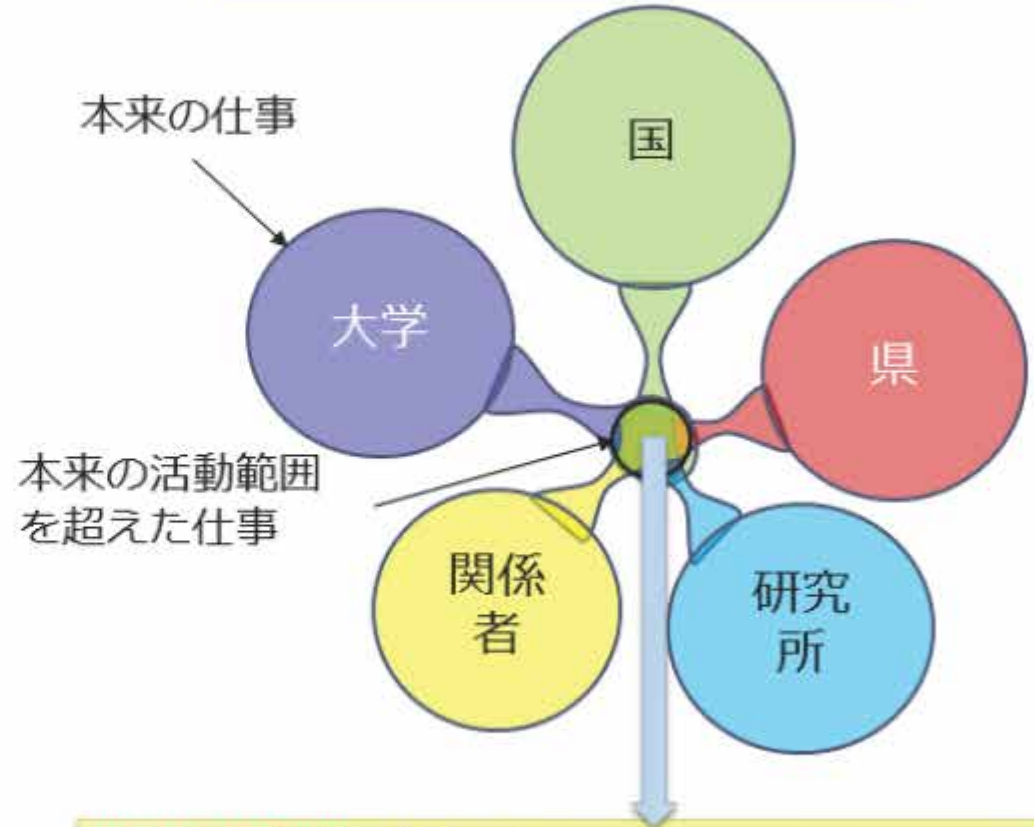
総合的管理のイメージ

一般的な沿岸域総合的のイメージ

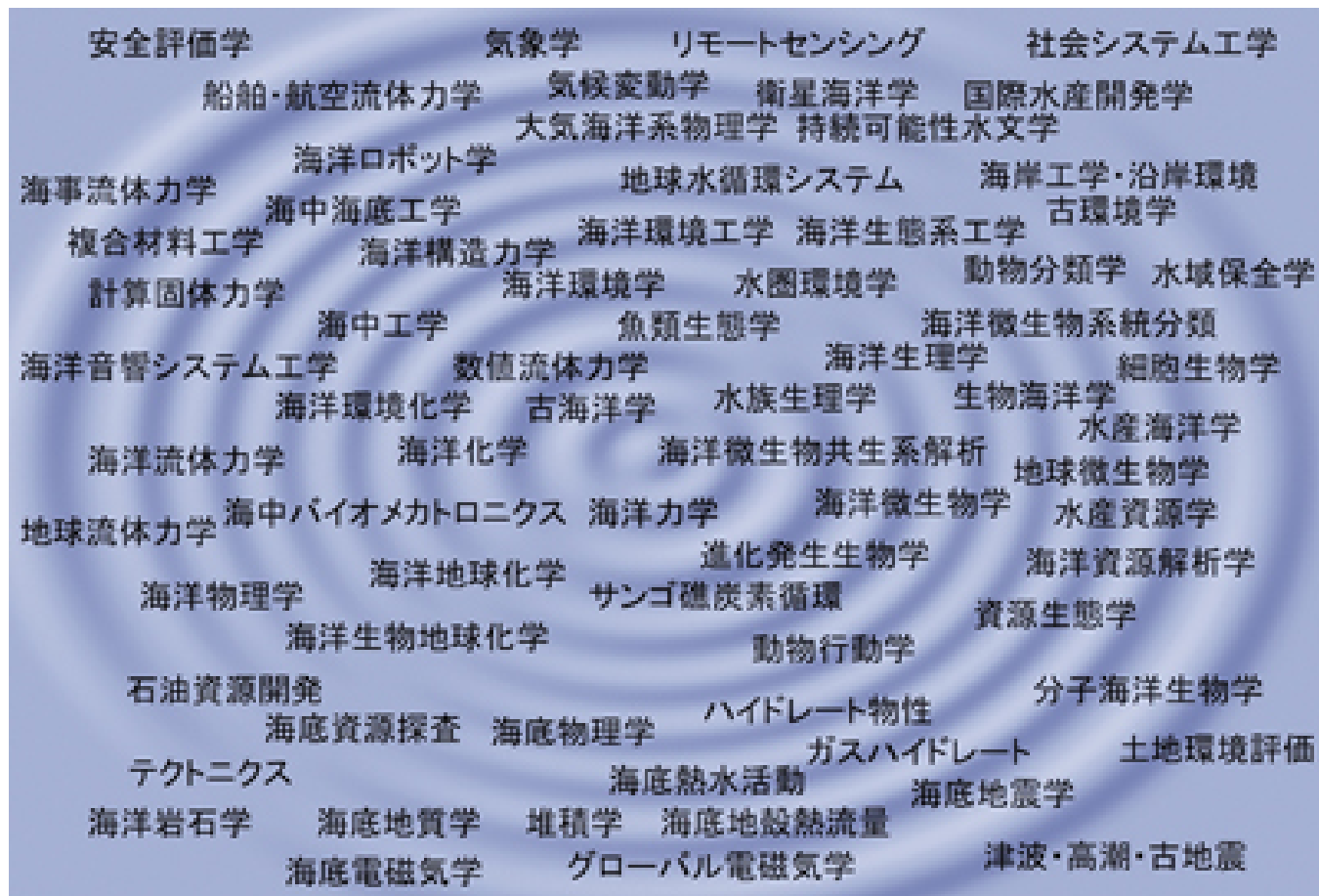


お互いの仕事の中の**共通項目**

今回の協働・連携のイメージ



“**同じ目標**”に対して、
お互いが少し手を伸ばし合い「**本来の活動範囲を超えた仕事**」をできる範囲で実施

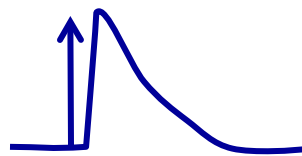


東京大学の海洋関連研究者の専門分野群。これでもすべてを網羅しているわけではない。

2007年海洋アライアンス設立記念シンポジウムにおける小宮山宏総長の講演

急性

イベント発生型 (**微分値**が支配)



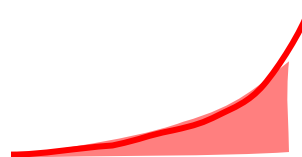
突発的な現象が連鎖的に伝播する

地震、津波、火山噴火、土石流、高潮、豪雨・豪雪、洪水、干ばつ

→ 古典的、経験の蓄積とともに制御技術が成熟

慢性

生活習慣病型 (**積分値**が支配)



物質輸送の不均衡が蓄積して均衡点が変わる

温暖化、気候変動、オゾン層破壊、酸性雨、海岸侵食、砂漠化、森林破壊、種の絶滅、複合汚染

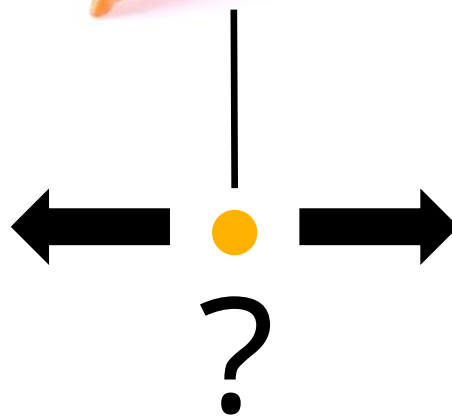
→ これから急増する災害、対応技術が未熟

分析(analysis)

ナノ(nano)

微分(differential)

局所(local)



総合(synthesis)

マクロ(macro)

積分(integral)

全体(global)



学術創成、行政支援、情報発信
→ 学会の役割